

厚生文教常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査として、会議規則第 75 条の規定により閉会中の継続調査として申し出した次の事件について、調査を終えたので同規則第 77 条の規定により報告する。

平成 24 年 2 月 28 日

上富良野町議会議長 西村 昭教 様

厚生文教常任委員長 佐川 典子

記

調査事件名 先進市町村行政調査の件

1 調査の経過

本委員会は、平成 23 年第 3 回定例会において、本委員会の閉会中の継続調査に申し出した先進市町村行政調査について、平成 23 年 10 月から 7 回の委員会を開催し、「学校施設のあり方について」及び「高齢者対策について」に関し、現状把握の事前研修を行うとともに先進市町村の選定調査などを行い、平成 23 年 11 月 13 日から 17 日までの間、石川県穴水町・内灘町、福井県坂井市、京都府舞鶴市を視察し調査を行った。

2 調査の結果

・学校施設のあり方について

今回の先進市町村行政調査の「学校施設のあり方について」石川県内灘町立鶴ヶ丘小学校と福井県坂井市立鳴鹿小学校の視察を行ったので、以下報告する。

(1) 石川県内灘町 うちなだまち 人口 26,882 人 (平成 23 年 9 月 30 日現在)

内灘町の概要

内灘町は、石川県の中西部に位置し、面積は約 20 平方 km、東西 2.9km、南北 0.9km で、隣接する金沢市のベッドタウンとなっている。昭和 37 年に町制を施行し、平成 24 年 1 月 1 日をもって、町制 50 周年を迎える。

日本海と河北潟に挟まれた豊かな水域に恵まれ、白山・立山連峰を望む光溢れる砂丘の町である。内灘海岸は四季を通じ多くの人で賑わい、マリンスポーツのメッカとして若者達の人気を集めている。また、金沢大学が立地する医療の町である。

内灘町では、まちづくりの基本テーマとして「健康」「教育」「環境」「子育て支援」「活力」の「五つの K」を掲げている。5 つの K はそれぞれに関連し、個々の

施策の連携により効率的に事業を執行し、元気で活力に溢れた内灘町を目指している。また、「まちづくりの主体は町民である」ことから住民自治の原点を立法化し、将来にわたって実行するため、「まちづくり町民会議」の皆さんの手によりまちづくり自治基本条例が策定されている。

産業は砂丘地を利用した野菜農業が盛んで、すいか・大根などが特産品。干拓地では酪農も行われており、県内の牛乳出荷量の30%を占める。

つるがおか 内灘町立鶴ヶ丘小学校の取組み

内灘町教育委員会の学校教育課重点事業である「特色ある学校づくり」と「きめ細やかな教育」の推進のもと、各校が一丸となって推進している例が表れており、鶴ヶ丘小学校は昭和45年に竣工しており、地震災害発生時の児童の安全確保のために、十分に耐震性能を有する校舎に改修を行うとともに、エコスクールモデル校としての体制を取り入れた。

- ア 校舎耐震補強と大規模改修工事 ~ 安心して学べる明るく楽しい学校に
安全・安心な学校...耐震性能を震度6強に耐える(役場庁舎と同程度)。
各室にインターホンを設置し、正面玄関は電気錠にて開閉。
建物の機能等の再生...外壁、内装の壁、床、天井等のリニューアル。トイレは洋式便器に全面改修。給食配膳室の位置変更。
バリアフリー化...教室、トイレ、手洗い場の段差解消とエレベーターの設置。
明るく「学び」に配慮した設備...教室の黒板張替え(1・2年教室はスライド式黒板)、ロッカー・照明器具の取替え、教室や廊下などの壁や床を明るい色に。
環境・省エネに配慮した設備...夜間電力を使用する蓄熱式暖房設備への変更。
男子トイレ小便器は個別センサーによる水洗方式。

イ エコスクール推進活動

従来の学校教育における環境教育を一層推進するため、エコ活動推進モデル校(平成20・21年度)となり、2つの課題を推進し現在も実践継続されている。

日常的なエコ活動の取り組みで目標を持ち、達成する喜びを感じる子に育てよう。

学校でのエコ活動を通じ、家庭や地域にも生かせる子を育てよう。

エコスクール推進組織...校長はエコスクール統括者、教頭が副統括者となり、その他の教職員・児童は推進員となっている。児童会のリーダーを環境リーダーとし、各クラスのリーダーを環境クラスリーダーとし、環境目標に応じて児童は環境実行員として位置付けた任務を担っている。

児童の行動項目と目標

児童	電気エコ	教室にある電気製品は、使うときだけコンセントのスイッチを入れます。
		必要のない教室の照明は消します。(教室に誰もいない時、明るい日、給食時、清掃時など)
	紙エコ	教室で出る使用済みの紙は、「もう1回」ボックスか「資源回収」ボックスに入れます。
	空き缶エコ	空き缶を学校で回収し、町の活動に協力します。(飲料用の空き缶のみ、缶詰の缶は不可)
	水エコ	むだな水は流しません。(手洗いのとき、歯磨きの時、手洗い場掃除の時等)
	学習会	なぜエコ活動が必要なのかを集会等を通して知る。

教職員の行動項目と目標

教師	電気エコ	不要な電気(照明、事務機器)は、こまめに消します。必要のない廊下の照明は消します。(天気の良い日、児童がいない時)
	紙エコ	用紙の両面印刷など紙使用の減量に努めます。
		職員室で出る使用済みの紙は、分別してリサイクルボックスに入れます。
		再生紙の使用を推進します。
	空き缶エコ	児童同様
	水エコ	児童同様
校内研修会	省エネとリサイクルが地球環境に及ぼす影響やエコ活動の必要性などについて研修を深めます。	

「エコ通信」の発行と家庭と地域に配布...エコ活動の学校での取り組み状況を学校通信「エコ通信」として発行し、家庭や地域(町内会や集会を通じて)に配布を行い、地域のエコ活動の核として発展させている。(持続発展教育 = ESD)

鶴が丘小学校での様々な掲示物等

- ・太陽光発電システムの電光パネル盤が廊下に設置され、「いままでのCO2削減量」「現在の発電力」「いままでの発行電力量」が掲示。
- ・トイレの入り口に「きれいなトイレはどんどんきれいになる」「汚いトイレはどんどん汚くなる」と貼付。
- ・体育館の入り口に「内灘町災害用資材機格納庫」あり。

さかい
(2) 福井県坂井市 人口 94,501 人 (平成 23 年 10 月 1 日現在)

坂井市の概要

坂井市は、平成 18 年 3 月 20 日に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町の 4 町が合併して誕生した市である。

福井県の北部に位置し、西は日本海、東は勝山市、北はあわら市・石川県加賀市、南は福井市・永平寺町に隣接し、南北 17.26km、東西 30.602km と東西に長く、面積は 209.91 平方 km となっている。自然環境は、海・山・川・平野と多岐にわたり、中央部の坂井平野のほか、西は日本海に向けて、丘陵地・砂丘地が広がり、東は標高 1,045m を最高峰とする山々が連なっている。また、福井県を代表とする九頭竜川が南部から西部の河口を流域として日本海に注ぎ、東部の山間地域を源流とする竹田川が北部を東西に流れ、九頭竜川河口で合流している。

また、まちづくりの基本計画に「住民とともに育むまちづくり」、「多様な都市活動を支えるまちづくり」、「地域の活力を創造するまちづくり」、「安全で快適な暮らしを支えるまちづくり」、「美しい自然と共生するまちづくり」、「誰もが笑顔で暮らせるまちづくり」、「生涯を通して学び・育つまちづくり」、「地域全体でもてなすまちづくり」の 8 項目を掲げている。特産品は越前ガニやらっきょう、若狭牛、スイカ、メロン、ミディトマト(フルーツトマト)、そば、地酒などがある。

なるか
坂井市立鳴鹿小学校の改修整備計画

4 町が合併した経過があり、現在 20 の小学校があり、その中の一つである鳴鹿小学校は昭和 53 年度に鉄筋コンクリート造 3 階建として建築したが、平成 21 年度にエコ改修工事を工事費 3 億 7,787 万 8 千円を要し竣工した。現在の学級数は 6 学級、児童数は 153 名である。ハード事業・ソフト事業別の経過は次のとおりである。

ア ハード事業

エコ改修検討会

平成 19 年 6 月	エコ改修参加者公募
6 月～10 月	エコ改修検討会(全 7 回開催、P T A・市民の各種団体・大学教授等の 48 団体 352 名が参加。プロポーザル参加予定業者は傍聴)

プロポーザル

平成 20 年 1 月	プロポーザル公募
2 月～3 月	設計プロポーザル審査・設計者決定

設計

平成 20 年 5 月	3 者打合せ
(～21 年 2 月)	(全 21 回開催、教育委員会、学校、設計事務所)
平成 20 年 8 月	第 1 回建設委員会(校長・教育長・大学教授 4 名)
9 月	基本設計の確定
10 月	第 2 回建設委員会

平成 21 年 2 月	実施設計の確定
改修工事	
平成 21 年 5 月	工事着工
平成 22 年 3 月	工事完成・見学会
イ ソフト事業	
環境教育検討会	
平成 19 年 7 月～10 月	環境教育検討会（全 4 回）
平成 20 年度	授業研究会（全 6 回）
平成 21 年度	” （全 3 回）
地域との連携	
平成 19 年 11 月	親子環境学習会
平成 20 年 6 月	P T A とのワークショップ
9 月	P T A への報告会
11 月	親子環境学習会
平成 21 年 10 月	P T A の工事見学会
11 月	エコキャップ改修活動
平成 22 年 3 月	ビオトープの小川づくり
5 月	緑のカーテンづくり

坂井市立鳴鹿小学校の環境教育

自然豊かな鳴鹿という地域の特色を生かし、ビオトープを始め、エコネイチャー活動を進め、各学年ごとにテーマを定めて環境学習を積極的に実践している。

- 1 年生 「自然とあそぼう」
- 2 年生 「自然と友だちになろう」
- 3 年生 「鳴鹿、大好き、鳴鹿ってどんなところ？」
- 4 年生 「鳴鹿っ子エコレンジャー」
- 5 年生 「米づくりで考えよう、鳴鹿の環境」
- 6 年生 「鳴鹿まほろば物語」「鳴鹿エコプロジェクト」

鳴鹿小学校のエコ改修の内容

「地域のエコシンボルとなる学校へ」「地域に地球にやさしい校舎」のテーマで改修されたがその内容は次のとおりで、各分野での住民と児童の意見が採用されている。

ア 自然の恵を利用した快適な空間

「自然採光」の活用でトップライトの設備と教室両面採光。

「通風」の取り込み、風のプロムナードと名づけ、温度の一定化に向けた自然換気窓と教室オープン化とガラス設置。

イ 省エネルギー、CO₂削減を目指して

外断熱・内断熱・遮断塗料・ペアガラス・消費電力のパソコン集計測定。ペレ

ットストーブの導入（８台）

ウ 子どもたちの取組み（エコ改修工事に参加）

階段の木格子の塗装（３～６年生） 校舎内の壁面などにサイン・イラストを描く（１～２年生） エコ改修工事見学（全学年）と断熱効果の調査、緑のカーテン（６年生）

（３）まとめ

学校校舎の耐震化・耐震補強については、昭和 23 年 6 月に坂井市付近を震源とするマグニチュード 7.1 の直下型地震により、約 3,800 人の尊い命が失われた歴史があり、内灘町も平成 19 年 3 月 25 日の能登半島にマグニチュード 6.9 の地震があったことから、両市町とも耐震対策は公共建物・学校等はすべて終了している。また、両校とも地球温暖化・省エネ対策と環境教育の実践が積極的に推進されている。地域住民との関わりを取り入れた協力体制が構築され、「家庭・地域との連携」が重点目標として実践されている。

エコ活動も学校内での児童・教職員の活動から児童の家庭へ、そして地域へと展開されている。「エコ通信」の発行も非常に分かりやすく、特に家庭・地域には大きな刺激を与え、成果を上げている。本町の各学校も「学校だより」を発行し、住民会・町内会を通じて回覧されて、町民から学校の活動状況がわかると好評であるので、エコ関係についても環境教育の取組みと共に考えるべきである。

今回の先進地行政調査は、上富良野小学校改築に向けて町民の関心が高まる大きな課題であったが、鳴鹿小学校のプロポーザルと本町のプロポーザルへの経過の違いなどや、坂井市（鳴鹿小学校エコ改修）でのエコ改修検討会参加者の公募と、7 回のエコ改修検討会の開催（48 団体、352 名参加）についての住民の意見聴取と反映が「地域のシンボルとなる学校へ」につながっていることを実感した。本町もソフト・ハードの両面から上富良野小学校改築事業について進行計画や、進捗状況を情報公開の開示という観点から町民に対し示し、何をテーマとした学校施設を目指し、位置付けをするのかオープンに進めていくことや、また、賛同が得られるような施設にするためには、どの様な町民への働きかけと地域住民の声を聞く姿勢があるのか考えるべきで、利用する子ども達の将来や夢に向うための土台となる学び舎としての価値観を、町民と共に呼応できる体制の構築が引き続き必要になると思われる。

・高齢者対策について～介護予防の充実

石川県穴水町と京都府舞鶴市の高齢者対策について視察を行ったので、引き続き報告する。

あなみずまち

（１）石川県穴水町の概要 人口 9,957 人（平成 23 年 4 月 1 日）

穴水町は、能登半島の中央に位置する町。

北部・西部は能登丘陵の一部をなし、南部は波静かなリアス式海岸の七尾北湾の北辺、東部は富山湾に面している。町の大部分は丘陵地と台地であり平地は谷あいには点在して

いる。面積は総面積で約 183 平方km、東西約 30 km、南北約 15 kmとなっている。明治以降、町村合併により昭和 30 年に現在の穴水町の姿となった。

まちづくりビジョンとして、1.誰もが安心して暮らすことができる安全でやさしい福祉のまちづくりの推進をする「福祉・健康」、2.学校・家庭・地域が教育の連携をし、個性の教育を進める「教育」、3.観光と結びつけて各産業の育成を図る「産業」、4.快適で美しく文化的なまちづくりを目指して「環境整備」、5.豊かな伝統文化の継承と地域文化の創造を目指して「文化」、6.町民とともに明るく豊かなまちづくりを目指す「行政・議会」の 6 項目を掲げている。

また、商店街が約 1 km にわたり、能登では有数の商業地であり、飲食店が多いことも特徴。交通の要所であるため、営業所や支店、ショッピングセンターが周辺の自治体に比べて多いのも特徴である。

農林水産業が主な産業で、特産品は牡蛎貝・ナマコ・メバル・クロダイ・スイカ・栗など。まいもん(=美味しいもの)の里づくりとして、食の集積地を目指している。

高齢者の状況と施策

穴水町の高齢者現況は人口 9,957 人中 65 歳以上の高齢者数は 3,751 人、高齢化率は 37.7%と本町よりも高い高齢化率である。高齢者世帯は 654 世帯あって独居高齢者は 618 世帯ある。要介護者及び虚弱高齢者の総数は 658 人、65 歳以上の高齢者のうち 17.5%になっている。

65 歳以上の高齢者で、自立高齢者は 3,093 人と高齢者全体の 82.5%であって穴水町では生きがい対策や健康づくりとして就労・学習活動、老人クラブ、健康クラブ、健康教育、健康相談、健康づくり、健診の充実などの取り組みを図っている。

ア 自立高齢者(元気老人)

生きがい対策・健康づくり

老人クラブの活動

(ア) スポーツ振興事業

若返り運動会、グラウンドゴルフ大会(2回)

(イ) 教養活動事業

幹部研修会、女性部研修会、交通安全教室、教養講座

(ウ) 友愛活動事業

一人暮らしで寝たきり会員友愛訪問

(エ) 社会奉仕事業

公共施設や生活道路清掃奉仕、児童下校時見守り活動

外出支援バス

75 歳以上の虚弱高齢者(片道 200 円)

イ 介護予防・生活支援対策

地域包括支援センター(町直営)

軽度生活援助サービス(ヘルパー派遣(JA おおぞら))

～ 1時間 200円（月4回まで）

訪問理美容サービス（社会福祉協議会）～無料

配食サービス（民間業者）～1食 500円（配達料 200円町負担）

生活管理指導ショートステイサービス（養護老人ホーム）

緊急通報装置サービス（民間業者）～無料

介護用品支給サービス（社会福祉協議会）

～通常価格の半額（1ヶ月あたり 6,000円を上限）

寝具洗濯乾燥消毒サービス（社会福祉協議会）～無料

ウ 介護保険在宅サービス

訪問介護（ホームヘルプ）～介護予防訪問介護（民間業者3カ所）

訪問介護 要介護1～5と認定された方～サービス費用の1割負担

訪問リハビリテーション～サービス費用の1割負担

通所介護（デイサービス）～サービス費用の1割負担と食事代

短期入所療養介護（ショートステイ（老健あゆみの里他民間1施設））

～サービス利用料金の1割負担と食事代

エ 介護保険施設サービス

特別養護老人ホーム 90床（民間）

老人保健施設（老健あゆみの里） 56床（町直営）

療養型老人健康保健施設 143床（民間）

(2) 京都府舞鶴市の概要 まいづる 人口 87,778人（平成23年10月1日現在）

昭和18年に田辺藩の城下町として発展してきた舞鶴市と旧海軍の鎮守府設置を契機として発展してきた東舞鶴市が合併し、新たに舞鶴市が誕生した。さらに、昭和32年には加佐町を編入し、現在の舞鶴市となった。このことから、現在の東地区の一部では、「三笠通り」など軍艦の名前を通りに使用している。

京都府の北部に位置し、東・西・南側の三方は山に囲まれ、北側は若狭湾に面している。市域の海岸線一帯は、若狭湾国立公園に指定されている景勝地で、海水浴や釣り場などがあるほか、五老岳からの眺望は近畿百景第1位にも選ばれ、たくさんの観光客が訪れている。特産品は舞鶴かに（ズワイガニ）や岩かき、とり貝、かまぼこ、落花生、本願寺甘納豆などがある。また、舞鶴鎮守府初代長官の東郷平八郎が肉じゃがの生みの親であることから、肉じゃがの発祥地として市民グループが「肉じゃがまつり実行委員会」を立ち上げ、全国のイベントに参加し積極的に発信している。先ごろ、国の「日本海側拠点港」に舞鶴港が選定され、国際交易に展望が膨らんでいる。

都市像として世界にはばたく「交流ネットワーク都市」を目指している。基本方向は5つあり、内容は

1. いきいきとした交流と連携の元気なまち
2. 人にやさしい安全で安心なまち
3. 環境にやさしい循環・共生のまち

4. まちなみに個性と風格を感じるまち

5. 市民と行政の協働のまち

高齢者の状況

高齢化率は26.2%と、国や府の平均と比較して3ポイント程度高い値で年々上昇しており、平成17年以降は、後期高齢者数が前期高齢者数を上回って推移している。

平成12年介護保険制度創設以来、要介護認定者は急激に増加し、平成18年から平成22年度はほぼ横ばいに推移してきたが、22年からは増加し、23年は4,230人が要介護認定であり、認定率18.2%で、今後も増加すると見込んでいる。認知症高齢者も急増し、19年は2,140人が23年は約2,570人で要介護者の60.8%を占めている。

第4期高齢者保健福祉計画は平成23年度までであり、

基本理念として

- ・健康と生きがいによる活力ある高齢者づくり
- ・尊厳の確保と自立支援
- ・共に支え合う地域社会の形成

重点施策として

1. 地域での自立生活支援の仕組みづくり
2. 高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくり
3. 壮年期からの健康・元気づくり
4. 介護予防の充実
5. 適正な介護サービスの提供
6. 介護家族への支援

第5期高齢者保健福祉計画（平成24～26年分作成中）

基本計画は第4期（上段説明）と同じで、重点施策に認知症高齢者支援体制の整備を新たに図るとしている。内容は

1. 認知症に対する理解の推進
2. 認知症高齢者に対する介護技術の普及と向上
3. 認知症高齢者対応サービスの充実

具体的に認知症疾患センター（ケアマネージャー、医療機関、精神保健）により充実を目指す。

介護予防事業

認知介護予防について...自分の健康は自分で守る。「守る健康からつくる健康へ」として健康づくり介護予防自主グループ育成に向け、力を入れ早期発見による健康づくりが大切としている。

元気高齢者の為に...（高齢・障害福祉課と保険医療課において）文庫山学園体操教室や転倒予防の啓発事業、出前講座、運動教室、地域型認知症予防プログラムや地域活動組織支援事業、水中トレーニング事業、高齢者いきいきトレーニングなどがある。

二次予防事業として...地域包括支援センターと、介護保険課による要介護状態の予防の他、医師の判断の実施を経て、農村地域における農閑期の介護予防事業や南デ

サービスによる介護予防事業がある。この他ワンコインサービスで利用を促し、マシンを使った筋力アップ教室や運動、衛生士による口腔機能向上の講習「口から元気倶楽部」や栄養改善を学ぶ講習、閉じこもり予防事業などがある。ナイトケアサービスや訪問型介護予防事業などが充実している。

(3) まとめ

石川県穴水町での高齢者対策では、ニーズの高い事業のみ受益者の負担を少なくして、利用者への便宜を図っていた。高齢化率 37%を超えると、介護保険の中で行っていくサービスや町の負担に影響がある中、要介護 3 以上の在宅高齢者への無料の理美容サービスや、寝具洗濯乾燥消毒サービスなどがあり印象的であった。

在宅サービスの中の訪問サービスにおいては民間業者が 3 ヶ所あり、介護施設も民間とあわせて 289 床あり、利用者にとって安心である。

舞鶴市においては平成 23 年 10 月より実施されている高齢者健康・生きがいづくり調査研究事業(事業費 1,200 万円)では専門的な分野から運動機能の回復を狙い結果が期待され注目されているが、これは新市長が医師(元病院の理事長)であることから、医療・ケアマネ・包括支援センターとの親密な連携と共に充実が図られると思われる。認知症高齢者の増加や介護支援の充実は民間・行政どちらもどこまでも終わりが無い課題であるが、民間の施設があり病床も十分で利用者にとって満足感がある。

介護予防においても地域力の支えとなる元気高齢者の推進のためのくらしの便利帳(高齢者の保健福祉サービス利用の手引き)を配るなど、わかりやすい、見えやすい情報冊子を配ることは大事である。2 ヶ所の研修であったが、高齢化率が高く推移しており、本町においては特定健診受診率は 73.17%(平成 22 年度)と全国トップクラスであり、元気高齢者へのサービス事業も充実していることが分かった。

しかし、色々な事業に参加しない孤立性の高い高齢者や、多種多様な生き方をする高齢者への尊厳的な生き方への配慮、増え続ける認知症高齢者や独居老人、本人や家族の幸福感への配慮など便利感の充実が求められていると思われる。

国では平成 24 年度から平成 26 年度までの第 5 次の介護保険計画を策定することになっており、その中で介護予防に対する施策が十分ではないことへの懸念もある中で、自治体独自で行う介護予防や、寝たきり・認知症の高齢者にならないような対策と日頃からの特定健診の受診や地域全体で取り組む健康づくりが引き続き必要である。また、民間の参画を促し、協力を推進し介護難民を出さないことが町の安心へと繋がり、今後も求められる。特にサービスの精査と見直しを図り、時代に対応した公正な判断とサービスを進めるとした意見を強く示していたことが印象的であり、当然であるがゆえ、本町も再度考慮すべきところがないのか、常に前進していくべきである。